

北海道・アルバータ州 高校生交換留学促進事業 保護者向け事例集



令和6年（2024年）1月
北海道教育庁学校教育局高校教育課

はじめに

北海道教育委員会は、これまで「高校生交換留学促進事業」に参加された保護者の皆様から、事業終了後に提出いただく事業報告書やアンケートなどを通じ、本事業に対する様々なご意見やご要望を伺って参りました。

寄せられたご意見には、「情報が少なく、実際に参加するまではわからないことが多かった」、「事前研修会で過去の参加者から経験談を聞いて初めて、具体的なイメージができた」といったものが見られました。

このため、本事業への参加あたっての不安や疑問を、早期に解消するためのサポートができるよう、過去に参加された保護者の皆様の事業報告書やアンケートから、実際に保護者の方々がどのように対応したのかをまとめ、本事例集を作成しました。

参加を検討している保護者の皆様には、参加の可否を吟味するための参考資料として、また、参加が決定した保護者の皆様には、具体的に何をどのように準備・対応すべきかを判断するためのマニュアルとして、本事例集を活用いただけますと幸いです。

本事例集のほか、北海道教育庁高校教育課のホームページに掲載しております事業報告書も参照いただくことにより、一人でも多くの生徒や保護者の皆様が本事業に興味をもち、本事業への参加を契機に、本道はもちろんのこと、国内外で大いに活躍されることを期待しております。

最後に、本事業の改善に大いに役立つ貴重な経験の数々を伝えてくださった、これまでの参加者の皆様に、改めて感謝申し上げます。

目 次

- 1 事業概要 1
- 2 北海道側留学生の派遣 2～4
 - (1) 留学生とその保護者への挨拶・自己紹介
 - (2) 持ち物
 - (3) お金の持たせ方
 - (4) 医療機関の受診・医薬品
 - (5) 派遣中の生徒との連絡
- 3 アルバータ州側留学生の受入準備 5～6
 - (1) 必要事項の連絡・確認
 - (2) 家庭内の準備
- 4 アルバータ州側留学生の出迎え・受入れ 6～11
 - (1) 心構え
 - (2) 空港への出迎え・受入初日
 - (3) 通信手段の確認
 - (4) 毎日のコミュニケーション・留学生の日本語学習
 - (5) 食事
 - (6) 風呂・トイレ・洗濯
 - (7) 通学手段
 - (8) 休日の過ごし方・観光
 - (9) 健康への配慮・医療機関の受診
 - (10) 費用負担の考え方
 - (11) 留学生保護者への連絡
- 5 過去の保護者アンケートから 12～13

1 事業概要

(1) 実施内容

道と姉妹提携を結ぶカナダ・アルバータ州の高校生と、道立高校等の生徒がペアを組み、お互いの家庭にホームステイしながらパートナーの在籍校に通い、授業や学校行事に参加する。

(2) 実施時期・期間（R5）

北海道側留学生の派遣：11月上旬～12月中旬（約6週間）

アルバータ州側留学生の受入れ：2月上旬～3月中旬（約6週間）

(3) 参加生徒数（※R4年度実績）

北海道・アルバータ州からそれぞれ10名ずつ

(4) 保護者への補助

北海道教育委員会から、北海道側留学生の往復航空運賃に対し補助（R5年度は10万円を補助）

(5) 保護者の主な役割

時期	対応事項
7月	北海道側留学生とともに事前研修会へ参加 北海道側留学生のパスポート取得申請 アルバータ州側留学生及びその保護者とメールでやり取り・情報共有
8月	北海道側留学生渡航書類等準備
9月	補助金交付申請書類提出
10月	補助金請求書類提出
11月	北海道側留学生の出発見送り
12月	北海道側留学生の帰国出迎え
1月	アルバータ州側留学生受入事前研修会への参加
2月	アルバータ州側留学生の到着出迎え・受入開始
3月	アルバータ州側留学生の帰国見送り 補助金実績報告書類・事業報告書・アンケート提出

※ 時期は標準的なスケジュール

2 北海道側留学生の派遣

(1) 留学生とその保護者への挨拶・自己紹介

パートナーが決まり次第、メール、ビデオ通話アプリ（FaceTime、Zoom など）やインスタントメッセージアプリ（LINE、WhatsApp など）などで、留学生同士・保護者同士のコミュニケーションを始めてみてください。英語でのやり取りが難しい場合は、学校の担当教員にも協力してもらいましょう。

<<過去参加者の対応例>>

- ・「事前研修会が終わってから、留学生とその保護者とメールでやり取りを始めた。食生活で気を付けることなどを確認し、伝えたい情報は写真を送ることで、相手がイメージしやすくなるよう心掛けた。」
- ・「FaceTime を使って互いの家族全員で自己紹介をし、家と部屋の中を見せ合った。」

(2) 持ち物

冬のアルバータ州は北海道以上に寒さが厳しく、日中でも-30℃を下まわる日もあります。手袋や帽子などを忘れずに持って行きましょう。

例年、ほとんどの生徒が大きなキャリーケース2個（預け荷物）とリュック2個（機内持ち込み）を持って出発します。必要最小限の持ち物で出発しても、帰国時にはお土産などで荷物が増えることを想定して、準備しましょう。

<<過去参加者の対応例>>

- ・「カナダでは洗濯を週末にまとめてする家庭が多いようなので下着は多めに、また、寒さ対策に冬用のジーンズやヒートテックを持って行った。」
- ・「現地はひどく乾燥しているので、水筒、ハンドクリームが必須だった。」
- ・「カナダでは多くの場所でWiFiが使えるので、SIMカードは不要だった。」
- ・「栄養バランスを崩すことが心配だったため、コンパクト炊飯器、無洗米5kg、青汁、日本茶や梅干しのお菓子などを持たせた。具合が悪くなったときに役立ったようだった。」
- ・「日本らしいイラストを印刷したカードを50枚持たせた。お別れの際にメッセージを書くのに役立ったようだ。」
- ・「カイロを大量に持たせたが、室内は暖かかったようでほとんど持ち帰って来た。」
- ・「インスタント食品を持たせたが、現地の食文化を楽しんでいたのも、あまり手をつけずに持ち帰って来た。」

(3) お金の持たせ方

カナダはほとんどの場所でキャッシュレス決済ができるため、防犯の観点からも多額の現金は持たせず、プリペイドカード、デビットカード、クレジットカードなどを用意する家庭が多いようです。万が一不具合があった場合に備え、こうしたカードは2枚以上持たせることをお勧めします。

なお、クレジットカードについては、VISA、Master、AMEXなどは比較的どの店でも使えますが、JCBなど利用できないカード会社も一部ありますので、必ず現地での利用可否を事前に確認しておきましょう。

<<過去参加者の対応例>>

- ・「デビットカードを用意した。口座の残高が少なくなると使用できないため、使い過ぎる心配がなくて良い。届くまでに3週間程度かかったため、申込は早めにするべき。」
- ・「盗難、紛失があった場合を想定して財布を2つに分け、1つは普段持ち歩かせ、もう1つはスーツケースの中に鍵をかけて保管させた。キャッシュレス決済ができる場所では、主にVISAのデビットカードを使用させた。」
- ・「デビットカード2枚（道銀とジャパンネット銀行）にそれぞれ3万円ずつ入れ、用途別に使い分けさせた。」
- ・「デビットカードが不具合で使えなくなり、ホストファミリーの口座に急遽送金した。高額な手数料と日数がかかったので、カードは2枚持って行くべきだった。」
- ・「現金3万円分（カナダドル）と、留学期間限定のクレジットカード（家族カード）を持たせた。」
- ・「贅沢や無駄遣いをせずに考えながらお金を使うことも大切な経験になると考え、基本は現金300カナダドルでやりくりさせ、万が一に備えて2万円分のデビットカードも持たせた。」
- ・「こまめにクレジットカードの使用料を確認するようにした。」
- ・「お金を使った後は、スマホに記録したり、メモを残したりした。」

※ 過去参加者の平均持参額

現金（日本円）	: 3万円程度
現金（カナダドル）	: 2万3千円分程度
デビット/プリペイドカード	: 5万7千円分程度
計	11万円程度

(4) 医療機関の受診・医薬品

慣れない外国の医療機関を受診することを可能な限り避けられるよう、約2ヵ月間の留学期間を見据えて、虫歯の治療や予防接種などを出発前に済ませておきましょう。常服薬を持って行く場合は、入国審査の際に違法薬物と間違われまいよう、英語で医薬品の用途をメモしておくなどすると良いでしょう。

<<過去参加者の対応例>>

- ・「インフルエンザワクチンの接種のために病院に行った。」
- ・「虫歯があったので、出発前に治療が終わるよう早めに歯医者を受診した。」
- ・「皮膚科で2ヵ月分の薬を処方してもらい、それぞれの薬の量や用途が明記された調剤明細書を一緒に荷物に入れた。」

(5) 派遣中の生徒との連絡

国際電話はほとんど利用せず、週に1～3回程度LINE、FaceTime、Zoomなどでやり取りをしている場合が多いようです。時差が大きい（日本より約16時間遅れ）ため、連絡は互いに負担のない程度としましょう。生徒が現地で困ることがある場合、本人からはホストファミリーやパートナーに言いにくいこともあるため、何か改善が必要な問題を聞き取った場合は、学校の担当教員に相談してください。

<<過去参加者の対応例>>

- ・「LINEで週に3回ほど連絡を取っていたが、せっかく英語漬けになっているのだから邪魔しないようにと心掛けた。」
- ・「娘が毎日SNS上に日記を書いていたため、それを読むことで、時差を気にせず様子を知ることができた。」
- ・「あまり頻繁に連絡を取ると留学経験が半減してしまうと考え、ホストマザーがFacebookにアップする情報などで様子を見ていた。」

3 アルバータ州側留学生の受入準備

(1) 必要事項の連絡・確認

出願書にアレルギーなどの申告がある場合は、症状の程度や配慮すべきことについて、事前に確認しておきましょう。

通学時の持ち物や行事等については、基本的には学校から連絡してもらいますが、担当の教員と連携しながら、必要に応じて情報提供してあげましょう。

<<過去参加者の対応例>>

- ・「カナダには上履きの文化がないので、持ってくるようにメールで伝えた。日本の高校生より靴のサイズがかなり大きく、日本では購入しにくいので、持参してもらって正解だった。」
- ・「留学中の気温・気候、空港～自宅間の距離、SIMカードの購入方法、WiFi環境、アレルギーの有無や健康状態、朝食のメニューなどについて、WhatsAppを使って、留学生の保護者と連絡し合った。」
- ・「受入中に道外への旅行を計画していたので、事前に旅行先の情報を伝え、留学生の保護者の承諾を得ておいた。」

(2) 家庭内の準備

高額を費やして特別な準備をする必要はありませんが、留学生が快く過ごせるよう、必要な生活用品などの用意をお願いします。また、個室の提供は必須ではありませんが、可能な範囲で留学生が1人になれる時間・空間を確保してあげるようお願いします。

<<過去参加者の対応例>>

- ・「留学生の好きな色を聞き、その色に合わせて寝具を新調した。他は受入れを開始してから、留学生の状況に応じて、必要なものがあれば都度用意することとした。」
- ・「部屋を片付けて、布団、風呂用具、タオル類、弁当箱、水筒などを買い足した。また、ハウスルールを紙に書いて留学生用の部屋の壁に貼っておいた。」
- ・「留学生の身長が190cm以上あるため、ベッドの足元にベンチソファを付け足したり、ドアの高さなどを確認した。」
- ・「通学用の自転車を用意し、雨天時のためにバスカードを購入しておいた。」
- ・「JRの1か月定期、駅に自転車を準備した。1人で帰宅してもいいように、自宅の鍵を持たせた。」
- ・「インターネットや旅行書で、カナダの基本的な生活習慣や価値観などを調べた。」
- ・「受入期間中に週末は8回しかないので、家族の予定をまとめ、予め旅行の計画を立

てた。」

- ・「Skype を使って互いの家族同士で自己紹介をし、自宅の居間や台所、お風呂、トイレ、部屋などの様子を見せたことで、心配や不安を少しは解消できたと思う。」

4 アルバータ州側留学生の出迎え・受入れ

(1) 心構え

お客様としてではなく、家族の一員として接してあげてください。受入中は留学生の安全を第一に考え、特に門限などの安全に関わる家庭内のルールは、遠慮せずにはっきり伝えましょう。また、カナダでは家族と一緒に過ごす時間が日本より長いので、可能な限り団らんの時間も確保してください。

習慣や価値観の違いから、ストレスを感じることもあるかもしれません。家族だけで全てを背負おうとせず、学校とも連携しながら対応していきましょう。

<<過去参加者の対応例>>

- ・「不思議に感じることもよくあったが、文化の違いとして受け止め、うるさく指摘しないよう徹した。」
- ・「ホストファミリーを大好きになってもらうことが、日本人を、そして日本という国を好きになることにつながると考え、温かく迎え入れることを最重視した。また、日本の伝統や文化にたくさん触れさせてあげることが、受入側の責務と考えていた。」
- ・「おもてなしは大切な日本文化だが、無理はしすぎないように心掛けた。主人公は子どもたちなので、時には黒子となり、頑張り過ぎないぐらいがちょうど良いと思った。」
- ・「子育てや躾をするのではなく、環境を提供しているのだと考え、自分の主観を押しつけずに、留学生を見守って味方になってあげることが意識した。」
- ・「約束した門限を守れない日が続き、留学生ともめたこともあった。留学生も悪気があったわけではなく、普段の生活スタイルをしていただけのようだが、安全のためにも、守るべきハウスルールをはっきりと伝えた。」

(2) 空港への出迎え・受入初日

長時間のフライトによる疲労や時差ボケで、体調を崩しやすくなっていることが予想されます。到着初日は可能な限り早めに帰宅し、休ませてあげてください。

また、水道水をそのまま飲んでも問題ないこと、家には靴を脱いで上がることなど、日本では当然の習慣でも留学生は知らない場合がありますので、最初に教えてあげましょう。

<<過去参加者の対応例>>

- ・「画用紙いっぱい習字で Welcome と書き、日本の国旗やメープルリーフの絵で飾っ

たウェルカムボードを作った。受入中はそれをずっと部屋に飾っておき、帰国時にも持って帰ってくれた。」

- ・「長旅で疲れているようだったので、帰り道に高校の場所だけ少し見せて、家に着いてからは部屋でゆっくり休ませた。」
- ・「初日に家庭内での約束事を書いたプリントを渡し、食事、洗濯、門限など、日常生活に関する約束事を説明した。」

(3) 通信手段の確認

来道してから SIM カードを購入する留学生が多いようです。緊急時に留学生とすぐ連絡が取れるよう、通学を始める前に通信手段を確保しておきましょう。

<<過去参加者の対応例>>

- ・「来道してすぐに家電量販店へ行き、スマートフォンの SIM カードを購入した。」
- ・「カナダでは LINE は一般的ではないようだったが、家族との連絡手段としてインストールしてもらった。」

(4) 毎日のコミュニケーション・留学生の日本語学習

留学生の日本語レベルは様々なので、意思疎通に苦労する場面も多いかと思います。時には絵を描いて伝えたり、翻訳アプリを利用したりするなどしながら、日本語・英語を臨機応変に使い分けてコミュニケーションをとっていきましょう。

<<過去参加者の対応例>>

- ・「毎日ではないが、夕食後家族全員で集まり、ノートを使っていろいろな話をした。英語の早口言葉、日本語の敬語の仕組みなど言語の違いや、留学生の家族のことなど、文字や絵を使うとわかりやすく、話が弾んだ。」
- ・「留学生は日本語をほとんど話せなかったなので、基本は英語で会話した。日本語で話しているときは、誰かが通訳して、留学生が疎外感を感じないようにした。」
- ・「話題のきっかけ作りのため、食事中もあえてテレビをつけたままにしていた。ニュースなど多言語に対応しているテレビ番組は、英語の副音声で観るようにし、また、スポーツ番組など、言葉がわからなくても共有できるテレビ番組をよく観ていた。」
- ・「簡単なことはゆっくり日本語で話し、難しいことは翻訳機で英語にしていた。」
- ・「トランプやウノなどカードゲームをしたり、カナダにはないカラオケに連れて行ったり、コミュニケーションを多くとるよう心掛けた。」
- ・「言葉でコミュニケーションを取りづらい分、最初は音楽を通じたコミュニケーションから始めた。ピアノやギターを弾きながら、知っている曲と一緒に歌ったりした。」
- ・「お風呂上がりに一緒におやつを食べる時間を設け、忙しい中でもこの時間は家族み

んなで集まり、こちらから話しかけるよう心掛けた。」

- ・「体調が悪いときに大丈夫としか言わず、どのような症状かどのように対処したらよいか困った。」
- ・「翻訳アプリが役に立った。」

(5) 食事

アレルギーがない場合は、特別な食事を用意する必要はありませんが、アルバータ州では一般的でない食材も多く、食べられないもの、苦手なものが多い留学生もいます。無理強いはせず、留学生の好みや希望も聞きながら、可能な範囲でメニューを調整するよう配慮をお願いします。

<<過去参加者の対応例>>

- ・「好き嫌いはないようだったが、アルバータ州は内陸のため魚介類に馴染みがないようで、食べたことのないものはたくさんあることがわかった。留学生の希望を聞きながら、家族と同じ和食にしたり、シリアルにしたり、日によって調整していた。」
- ・「カナダでは昼休みに1回で弁当を食べるというより、空腹なときに自由に飲食をしていると聞いたので、弁当・パン・フルーツなどを組み合わせ、休み時間に少量ずつ食べられるよう工夫した。」
- ・「朝はパンとフルーツが良いようだった。弁当は娘と同じメニューにしたが、手をつけずに帰ってきたものがあつたため、留学生と話し合っ調整していった。外食も本人の希望を聞きながら決め、食べたくないものは無理強いしなかった。」
- ・「ひどく偏食だったため、用意したものをほとんど食べず苦勞したが、ある時点から、無理せずチーズバーガーやスープなど食べられるもので献立をまわすようにした。こちらのストレスも軽くなり、留学生も体調を崩すことはなかった。」
- ・「日本食が嫌いで、野菜や果物も一切食べなかつたため苦勞したが、留学生と一緒にインターネットでカナダの食事や食材を調べ、画面を見ながら好き嫌いを確認したり、一緒に食材を見ながら買い物に行ったりして解決していった。」
- ・「最初の1週間は弁当を作つたが、食べずに持ち帰つて来たため、2週目以降は1日350円ずつ渡し、学校の売店で好きなものを買わせた。」

(6) 風呂・トイレ・洗濯

- ◇ 風呂：アルバータ州の習慣とは異なる点が多いので、入浴のタイミングや風呂場の使い方など、初めにきちんと説明してあげましょう。
- ◇ トイレ：ウォシュレットがある場合は、使い方を知らない留学生も多いため、初めに説明してあげましょう。
- ◇ 洗濯：アルバータ州では週末にまとめて洗濯をする家庭が多いようです。家庭の洗濯ルールを説明し、積極的にお手伝いもさせてあげてください。

<<過去参加者の対応例>>

- ・「カナダでは湯船につかる習慣がなく、またシャワーも汗をかいた日だけ浴びるようだったため、最初はなかなかお風呂に入ってくれなかった。様々な入浴剤を買って自分で選ばせると、楽しんで入るようになった。」
- ・「カナダでは週に1回しか洗濯をしないようで、なかなか洗濯物を出そうとしなかった。はっきりと日本の習慣を伝え、毎週土曜日を家族みんなで洗濯・掃除をする日と決めてからは、手伝いもしてくれるようになった。」
- ・「シャワーに毎日入る習慣がなかったが、毎日入るように勧めた。」
- ・「部屋まで確認しに行かないと、洗濯物を出さずに何度も着たり使用したりするので、毎日チェックした。」

(7) 通学手段

アルバータ州では自分で車を運転して通学することも許可されているため、公共交通機関に長時間乗ることには慣れていない留学生も多いです。基本的には生徒と同じ方法で通学させ、留学生の体調を見ながら、必要に応じて送迎するなどの配慮をお願いします。

<<過去参加者の対応例>>

- ・「最初の1～2週間は車で送迎し、帰り道にたい焼き屋に寄るなど、小さな観光を楽しんだ。その後は自転車やバスで通学させたが、カナダでは車通学のため、普段と違う通学方法を楽しんでいるようだった。」
- ・「普段はスクールバスで通ってもらい、部活動で遅くなる時は車で迎えに行った。」
- ・「基本は自転車通学で、悪天候時のみバスに乗ってもらった。娘と一緒に帰れないときも、1人では帰らせないよう気を付けた。」

(8) 休日の過ごし方・観光

留学生が日本文化を多く体験できるよう、可能な範囲で配慮をお願いします。特別な観光地でなくとも、アルバータ州にはない海や、日本語のアニメ・漫画文化に触れられる書店などを訪れたことが、非常に楽しかったと話す留学生も多いです。

<<過去参加者の対応例>>

- ・「娘が部活のため夫婦と留学生だけのことも多かったが、何かを見せるだけでなく体験させることを重視し、トンボ玉作りやガラス作りを体験させた。」
- ・「神社の祭りや町のイベントに連れて行き、地域の人たちとも交流させた。祭りのために浴衣の着付けを教え、自分で着られるようになってとても嬉しそうだった。」
- ・「周囲には特に観光スポットがないので心配したが、アルバータ州は内陸のため、海に連れていくと非常に喜んでいた。」
- ・「田舎なので心配したが、ソーラン祭り、お茶会、盆栽、生け花、琴コンサートなど日本文化を体験できるイベントに多く参加させた。」
- ・「娘が習い事に出かける際、一緒に連れて行って体験や見学をさせた。」
- ・「遠くに行かずとも、クラスの友達とカラオケ、ボーリング、買い物などに行くことも楽しんでいた。」
- ・「本のリサイクルショップに連れて行くと、カナダより安く日本語の漫画が手に入るようで、とても喜んでいた。」
- ・「ウポポイや野球観戦、温泉に出かけた。」

(9) 健康への配慮・医療機関の受診

風邪を引いたり怪我をしたりした場合は、学校の担当教員にも相談しながら、留学生を通じてアルバータ州の保護者にも連絡し、処置について可能な限り事前に情報共有しましょう。

また、帰宅時のうがい・手洗いや、毎日の検温など、感染症予防などのために留学生にも行ってほしいことがあれば、初めにきちんと説明して協力してもらいましょう。

<<過去参加者の対応例>>

- ・「留学生に持病があったため、緊急時に備えて、最寄りの大きな病院の診療時間などを確認しておいた。」
- ・「靴擦れなどで市販の薬を使うこともあったが、効能や成分を写真に撮って翻訳ソフトで英訳し、留学生の保護者に許可をとってから使用した。」

- ・「アルバータ州の夏よりも気温が高いようで、暑さが辛そうだった。外出から戻るとに額に冷えピタを貼り、氷枕で昼寝をするなどして乗り越えていた。」
- ・「受入中に留学生の体調が悪いときにメールでホストファミリーとやりとりをした。」

(10) 費用負担の考え方

個人的な活動に要する費用は留学生の自己負担、家族の一員として行動する場合の費用は受入家庭の負担となります。負担区分について迷うものがあれば、個別にアルバータ州側に照会することも可能ですので、まずは学校の担当教員に相談してください。

<<費用負担の例>>

費用の例	受入家庭負担	留学生負担
日常生活費	○	
食費(通学時の昼食代を売店などで購入する場合の購入費も含む)	○	
新千歳空港～自宅間の送迎に係る交通費、宿泊費(前後泊が必要な場合)	○	
通学に要する交通費	○	
家族旅行費(宿泊費、外食費、施設入場料など)	○	
個人的な活動(友達との遊びなど)に要する費用		○
学校行事(見学旅行、スキー授業など)への参加費		○
医療機関の受診や治療に要する費用		○
国際電話利用料		○

※ 留学生が負担する費用についても、急病やケガにより留学生の所持金を上回る治療費が急遽発生した場合などは、一時的に受入家庭による立替えが必要になる場合もありますので、予めご了承ください。

(11) 留学生の保護者への連絡

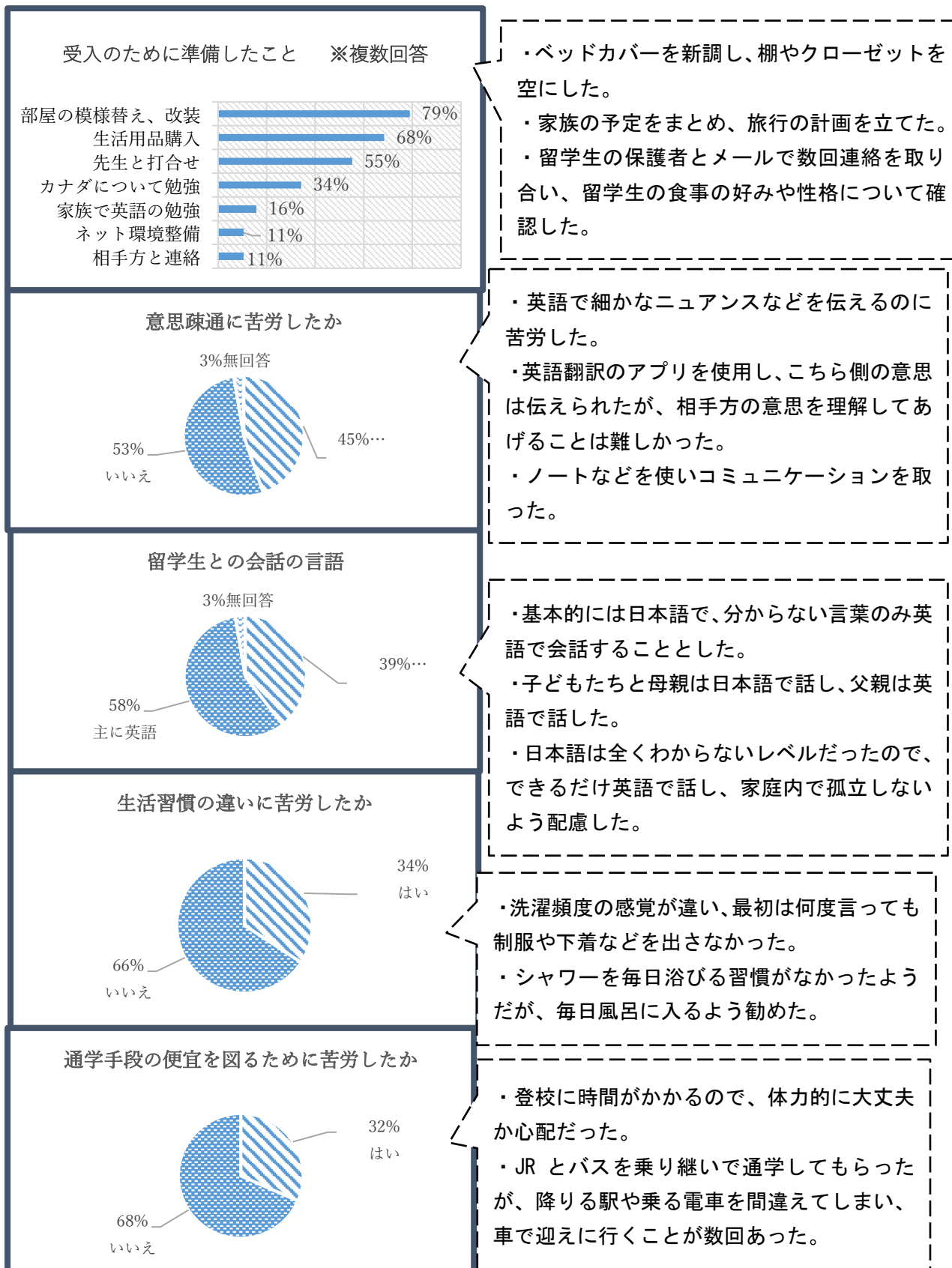
必要に応じてアルバータ州側の保護者と直接連絡を取り、写真を共有して定期的に留学生の様子を伝えるなどして、保護者間でもコミュニケーションをとっていきましょう。

<<過去参加者の対応例>>

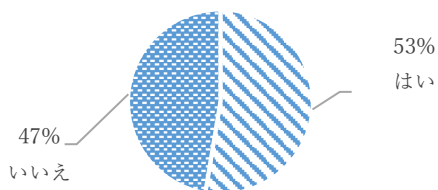
- ・「毎週末、LINEで留学生の保護者に写真を送り、元気な様子を報告した。」
- ・「受入途中で留学生の保護者から、食事の量が足りていないようだメールをもらった。本人からは言いづらかったようなので、保護者同士で連絡を取り合うことも大切と感じた。」

5 過去の保護者アンケートから

※ 平成 29 年度、平成 30 年度、令和元年度、令和 4 年度の 4 年間分のアンケート結果から（回答者計 38 名）

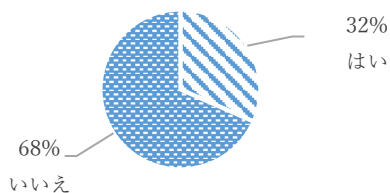


毎日の食事に苦労したか



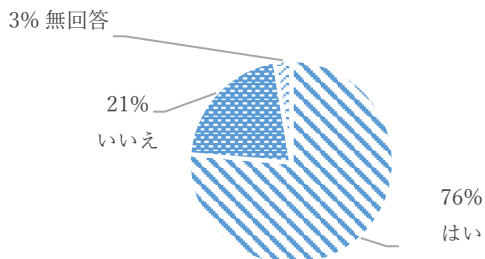
- ・カナダでは馴染みがないという食材が多かった。
- ・嫌いなものが多く、特に野菜を好まないのので、細かく切るなどの工夫をした。
- ・アレルギーの種類が初めて聞くものばかりで戸惑った。

受入・派遣中にカナダのホストファミリーと連絡をとっていたか



- ・お互いに、毎週末写真とエピソードを送り合っていた。
- ・空港への到着時、写真を送って無事を報告した。
- ・メールで写真を送り合っていたが、必要な確認事項などは学校の先生とやり取りしてもらった。

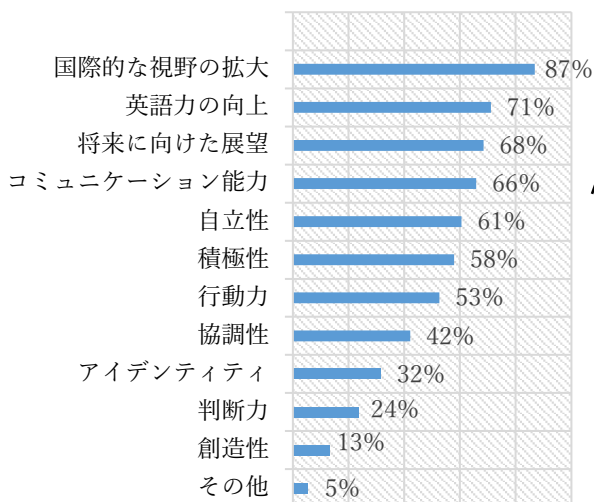
家族の意識等に変化を感じたか



- ・子どもの将来についての考え方が変わり、日本特有の学歴社会や年功序列の中で生きていくのではなく、本当にやりたいことができる大人になってほしいと思うようになった。
- ・日本の良さに改めて関心を持った。また、他人との価値観の違いを受け入れ、尊重することができるようになった。
- ・子どものために一生懸命考えることの楽しさを思い出した。

子どもの成長を感じた点

※複数回答



- ・自分の考えを客観的に捉えた発言が増え、行動もより積極的になった。
- ・進路についてさらに強く意識するようになった。また、以前より家族を大切にするようになった。
- ・自分の行動がもたらす結果や成果を、より想像し意識するようになった。
- ・他の人とうまくやれるように、協調性が身についた。